

辺野古に基地は造らせない！ 沖縄の海と山を守ろう！

# 沖縄県は「変更承認申請」を不承認としてください

全国から、沖縄の民意に連帯する「意見書」を届けよう

辺野古新基地建設は不可能として沖縄県が埋立承認を撤回したのは、  
大浦湾側埋立海域に広がる軟弱地盤が最大の理由でした。

一方、政府・防衛省は、地盤改良により埋立ては可能として工事を強行してきました。

しかし、地盤改良のためには「変更承認申請」が不可欠であり、  
沖縄県の承認無しに工事を進めることはできません。

4月21日、防衛省が沖縄県に対し「変更承認申請」を行ったことで、  
辺野古新基地阻止をめぐる闘いは大きな節目を迎えています。

この「変更承認申請書」の告示・縦覧が、7月下旬頃から始まります。

3週間の縦覧期間中は、誰でも（団体も可）沖縄県知事宛てに意見書を提出できます。  
工事が困難な軟弱地盤に加え、今後12年、9,300億円（沖縄県は2兆5,500億円と試算）の  
巨費を投入する「変更承認申請」が、「唯一の解決策」などでないことは明らかです。

辺野古に基地は造らせない！ 玉城デニー知事を激励し、沖縄の民意に連帯する声を  
「意見書」として届けよう。政府・防衛省の工事強行をストップさせるのは、  
全国の主権者一人ひとりの声です。

## < 「意見書」記入上の注意 > （書式と記載例を別添しています）

- ※ 防衛省が提出した「変更承認申請書」は、沖縄県HPにアップされます。
- ※ 「意見書」は、別添の書式を利用し、記載例を参考に準備してください。用紙はHPからもダウンロードできます。必要項目の記載があれば、ハガキでもかまいません。
- ※ 個人でも団体でも提出できます。  
団体の場合は、団体名・代表者・事務所の所在地を記載してください。

## < 「意見書」の提出期間 >

- ※ 「意見書」の提出は、3週間の縦覧期間内に限られます。前後での提出は「無効」になりますので注意してください。
- ※ 縦覧期間内に、提出先に持参もしくは郵送してください。（郵送の場合は、締切日の消印があれば有効になります）
- ※ 縦覧期間は7月下旬頃からの予想ですが、ニュースやHP等で必ず確認してください。

## < 「意見書」の提出先 >

〒900-8570 那覇市泉崎1-2-2 沖縄県土木建築部海岸防災課 Tel. 098-866-2410

【呼びかけ】 「止めよう！ 辺野古埋立て」国会包囲実行委員会

<https://humanchain.tobihiro.jp/>

〈沖縄・一坪反戦地主会関東ブロック〉 090-3910-4140

〈沖縄意見広告運動〉 03-6382-6537 〈ピースボート〉 03-3363-7561

【意見書の書式と記入例】

辺野古新基地建設事業・公有水面埋立変更承認申請に係る意見書

沖縄県知事 玉城 デニー 殿

年 月 日

(提出者) 住所  
氏名  
電話

※団体の場合は、団体名・代表者・事務所所在地を記載してください。

【利害関係の内容】

- ・公有水面埋立法では、意見書を提出できるのは「利害関係人」とされています。
- ・税金で造られる辺野古新基地、辺野古・大浦湾の貴重な自然、沖縄への米軍基地強化等の問題は、誰でもが当事者であり「利害関係人」です。
- ・「辺野古新基地は私たちの税金で造られます。納税者・主権者（利害関係人）として意見を述べます。」等、自分自身が「利害関係人」と考える理由を書いてください。

【意見】

沖縄県知事は、今回の公有水面埋立変更承認申請を不承認としてください。

【理由】（下記を参考にご自由にお書きください）

- ・現地には軟弱地盤や活断層があり、基地建設は不可能です。
- ・海面下90mまで軟弱地盤が続いているにもかかわらず、海面下70mまでしか地盤改良を行わないため、このままではケーソン護岸は崩壊します。
- ・B27地点周辺の地質調査をやり直すべきです。
- ・完成後も地盤沈下が続き、前代未聞の滑走路のジャッキアップが必要です。
- ・今回は大規模な変更ですから、環境影響評価をやり直すべきです。
- ・大規模な地盤改良工事により一帯に汚濁が拡散し、大浦湾の環境破壊は深刻です。
- ・完成まで15年ほどかかることから、普天間基地の危険性は固定化します。
- ・工事費は9,300億円には収まりません。あまりの無駄遣いです。
- ・このとんでもない工事費を、コロナ対策にまわすべきです。
- ・イージスアショアを停止したように、辺野古の基地も見直すべきです。
- ・大浦湾に戻ってきたジュゴンを追散らす工事は許されません。
- ・7万9千群体ものサンゴ類を移植する計画ですが、移植でサンゴ類は保存できません。
- ・地盤改良工事で沖縄の年間採取量の2年以上の海砂が採取され、沖縄の沿岸地域の環境破壊は深刻です。
- ・県外からの土砂も持ち込まれ、特定外来生物の侵入が危惧されます。
- ・県内各地から土砂が採取され、新基地建設は海だけではなく、沖縄の山々も破壊します。

※「オール沖縄会議」は全国に意見書の提出を呼びかけています。この「記入例」は、「オール沖縄会議」が作成したものをベースにしています。「オール沖縄会議」HP <https://all-okinawa.jp/>

# 辺野古新基地建設事業・公有水面埋立変更承認申請に係る意見書

沖縄県知事 玉城 デニー 殿

年 月 日

(提出者) 住所  
氏名  
電話

## 【利害関係の内容】

-----  
-----  
-----

## 【意見】

沖縄県知事は、今回の公有水面埋立変更承認申請を不承認としてください。

## 【理由】

-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----  
-----

- \*団体の場合は、団体名・代表者・主たる事務所の所在地を記載してください。
  - \*本紙に収まらない場合は、別紙に書いて添付してください。上記の項目が含まれていれば葉書も可です。
  - \*意見書は、告示から3週間以内に下記へ持参するか郵送(締切日当日消印有効)してください。
- 〒900-8570 沖縄県那覇市泉崎1-2-2 沖縄県土木建築部海岸防災課 TEL 098-866-2410

# みなさんの「意見書」作成の参考にしてください (by M)

## 1. 設計概要変更申請の概要と問題点 (YouTubeから)

- ・北上田毅さん×桜井国俊さん (5月11日／東アジア共同体研究所)  
[https://www.youtube.com/watch?v=q7O\\_rfqdtx8&feature=youtu.be](https://www.youtube.com/watch?v=q7O_rfqdtx8&feature=youtu.be)
- ・北上田毅さん講演 (6月9日／沖縄平和市民連絡会)  
<https://www.youtube.com/watch?v=6w8xXMyoimo&t=37s>

## 2. 玉城デニー知事「到底納得できない」－辺野古の工事変更で国を批判

(4月21日「沖縄タイムス」電子版から編集)

沖縄県名護市辺野古の新基地建設で、沖縄防衛局が軟弱地盤の改良工事などを追加する設計概要の変更承認申請を県へ提出したことを受け、玉城デニー知事は21日午後、県庁で記者会見を開き、「県が求める対話に応じることなく、県民に十分な説明もないまま、埋め立て工事の手続きを一方的に進めることは到底納得できない」と批判した。…

20日に新型コロナウイルス感染拡大に伴う県独自の緊急事態宣言を発表した直後の申請について、玉城知事は「市中感染が広がる懸念も指摘され、県を挙げて感染拡大防止の対策を進めている状況である」と指摘。国民一丸となって取り組むべき時期にスケジュールありきで申請が提出されたことは「遺憾であり、断じて容認できない」と憤りを示した。…

さらに政府の試算で辺野古新基地建設の完了には約12年かかることが明らかになっており、当初計画で埋め立て工事を必要とする理由とした「普天間飛行場の一日も早い危険性除去」につながらないことが明確になったと主張した。

## 3. 設計概要変更申請の概要と問題点

(総がかり行動実行委員会・国会包囲実行委員会「抗議文/5月12日」から抜粋)

…今回の「変更申請」では、工期は完成までに今後12年、総工費は当初の2.7倍の9,300億円(沖縄県は2兆5,500億円と試算)に膨らんだ。工法も全面的といえる見直しがなされ、「変更申請」の実態は限りなく新規工事に近い。環境影響評価のやり直しは、必須のことだ。そもそも、水深90mに及ぶ軟弱地盤改良については、世界のどこにも可能とする技術や設備・経験がなく工事は困難であると、多くの専門家や技術者が指摘している。

軟弱地盤改良には、新たに大量の海砂が必要になる。埋立土砂はこれまで西日本各地から搬入する計画だったが、海砂・土砂の双方を沖縄県内中心に調達するとされている。沖縄の海と山の自然破壊は想像を絶するものとなるだろう。工期短縮のために、外周護岸を締め切る前から、海面下7mまでの先行埋立実施も計画されている。汚濁は大浦湾全体に拡散することが想定される。また、活断層の存在が指摘され、大量の危険物質を扱う軍事施設にもかかわらず、中小規模地震への耐震設計基準である「レベル1」を採用していることや、設計供用期間について「一般的構造物」が対象の50年を想定していることも大きな問題だ。2月には、B27地点の地質データ隠蔽も発覚した。ケーソン護岸基部にあたる重要地点であり、護岸崩壊の可能性まで指摘されているにもかかわらず、再調査は拒否したままだ。警備費が総工費の約2割を占めるという事実も、民意に反して強行される辺野古新基地建設の異常さを象徴している。

普天間基地の「5年から7年以内の返還」合意からは、すでに24年が経過した。仲井眞元知事と政府の「5年で機能停止」との約束期限も過ぎた。さらに供用までには、最短で今後12年を要する。「辺野古は唯一の解決策」の破綻は誰の目にも明らかだ。いま、政府・防衛省がなすべきことは「変更申請」などではない。辺野古関連工事を即時中止し、沖縄県と国会に対し現状を隠さず報告し、辺野古新基地建設を断念することである。

「辺野古に新しい基地は造らせない」という沖縄の民意は、沖縄県による「埋立承認撤回」以降も、県知

事選・県民投票・衆院補選・参院選と揺るぎなく示され続けている。地方自治と民主主義を無視し法治国家を破壊しているのは、安倍政権そのものだ。

昨年 10 月、米国の環境プロジェクト「ミッションブルー」は、辺野古・大浦湾一帯を日本で初の「ホープスポット」（希望の海）に認定した。今年 10 月に予定される生物多様性条約第 15 回締約国会議（COP15）にむけては、「2030 年までに世界の陸域と海域の少なくとも 30%を保護区として保全する」新目標の採択をめざして取り組みが始まっている。軍事基地のために、万年を単位とする歳月で形成された、やんばるの山を削り辺野古・大浦湾の埋立を強行することの誤りはすでに明らかだ。…

政府・防衛省は「設計概要変更申請」を撤回せよ！ 辺野古新基地建設を断念し、普天間基地を即時撤去せよ！ 辺野古新基地建設予算はコロナ対策と生活支援に回せ！…

#### 4. 坂本龍一さん「辺野古は無駄、ただのアリバイ」「非民主主義に抗議せぬ国民」

（6月11日「琉球新報」インタビュー記事から編集）

世界的な音楽家の坂本龍一さんが、名護市辺野古の新基地建設や新型コロナウイルス感染拡大の危機に直面する世界について語った。米軍基地などの安全保障は沖縄、原子力発電所などエネルギー供給源としての負担は福島など、限られた地域に集中しているとして「日本の民主主義は非常に特殊で、ねじれていると感じる。政府上層部が反民主主義的で、独裁的だ」「非民主主義的な政権に国民の多くがおかしいと抗議しない。民主主義が定着していないからだ」と指摘した。

コロナ禍のさなか、日本政府が4月、軟弱地盤に伴う新基地建設工法の設計変更を県に申請したことに「辺野古の基地は常識的に考えると完成しない。仮に完成しても使い物にならないのでは。やっていますというただのアリバイだろう。貴重な税金を無駄につぎ込むのか。コロナ禍対策でもお金の使い方が違う」と疑問を投げ掛けた。

行き過ぎとも言える地球規模の都市化が、新型コロナの世界的な流行をもたらしたと読み置き、「今や地球規模の都市化によって自然破壊が進んでいる。自然と共生する経済活動、人間活動に変えなければ、同じことが次々に起きる」と警鐘を鳴らした。

コロナ禍の後の世界（アフターコロナ）を見据え、都市型の生活様式を変える必要性を強調し、「都市デザインのバージョンアップを進めた方がいい。都市のデザインを直すことは巨大な公共事業にもなる。経済が落ち込んだ今、無駄な基地を造るより、はるかに大切だ」と提案した。

1月に宜野湾市で開かれたコンサートで、坂本さんは沖縄で初めてピアノを演奏した。来県に伴い、坂本さんは辺野古の海を視察した。

#### 5. 浦島悦子さんのエッセイ「積もり立ての新雪」（6月27日「琉球新報」）

「ふわっと優しく大地を包み込む積もり立ての新雪のような土——かな？」と、東北に住む友人の地質学者は言った。私が「大浦湾の『軟弱地盤』と言われるところの海底の土質をどう表現したらいいと思う？」と尋ねたことへの返事だ。サンゴ礁由来の石灰質で「N値ゼロ」の土というのは他にないだろうとのこと。

また沖縄のある研究者によると、大浦湾の入り口に当たるそこは、沖縄島が中国大陸と陸続きだった頃の名残をとどめる大切な場所で、その地史を物語る原初的な生きものたちが息づいているという。「積もり立ての新雪」というのは、雪の降らない沖縄では想像しにくい、母の懐に安らかに眠るみどりごのように、柔らかい土にくるまれて無数の繊細な命が眠っている様子を想像した。

大浦湾は調査が進むにつれ、地球上でも屈指の生物多様性の宝庫だということがわかってきた。調査のたびに新種が次々と発見される海は珍しく、「奇跡の海」とも言われる。「軟弱地盤」の場所は未調査のため、そこに棲む生きものたちも未確認だ。辺野古新基地建設のために立ち入り禁止区域とされている今は不可能だが、調査をすれば新種がたくさん見つかるだろう。

その命あふれる場所に地盤改良工事と称して、巨大な作業船から7万本以上もの砂杭が打ちこまれることを想像するだけで、息が詰まりそうになる。しかもそこは、この島の成り立ちを解明するためにも失ってはならない場所だ。何としても基地建設を止め、この宝の海を未来の子どもたちに残していきたい。